

会員の皆様

今年も師走になりました。あっという間には過ぎていきます。

ヒトの本当の行動メカニズムが一般的知識になり、条件反射制御法が普及し、刑事司法体系が効果的になるように、しっかりと臨床における患者さんの反応を見て、何を提供すべきかを一生懸命考え、勇気をもって、粘り強く主張していきましょう。

上記の意気込みを持ちながら、条件反射制御法を高めていく組織もしっかりと保っていかなければなりません。条件反射制御法学会の役員選挙についてのお知らせが、3頁目に掲載されていますのでご覧ください。まずは、今月18日午後1時からの臨時総会に多くの会員の方が参加されるようお願いいたします。

平井慎二

CRCCTを受けた方からの報告

ストーカー行為への関心がなくなっていく（その2）

K. K.

入院治療で条件反射制御法を受け、社会に戻った後、さまざまな出会いがありました。そこには人間関係も伴います。

日々生活の中でうれしい事や辛いことがたくさんありますが、時には仕事やプライベートで上手くいかず、ストレスを感じてしまうこともあります。

退院後の治療は、維持ステージの治療作業を自分で行います。その内容は入院時に行っていた制御刺激や疑似・想像・良かったことと辛かったことの読み返し、短時間内観などです。必要な程度は治療をしていたつもりでした。

しかし、退院後に女性関係で失敗してしまい、再入院してしまうことが2回ありました。

女性との交際関係が思うようにならず、気持ちがイライラしてしまい、女性に連絡を強要してしまったり、SNSに不適切な内容を投稿してしまったりして、迷惑をかけてしまったのです。

その原因としては、少なからず維持作業の取り組み方に問題もあったのではないかと思います。

体験を書き出したノートの読み方も想像も流れ作業になってしまっていて、怠ってしまったこともあり、2回の失敗があったのだと思います。

再入院中にはしっかりとこれまでの治療を継続しつつ、今後退院してからどうするかを、自分自身を分析しながら、ゆっくり落ち着いて考える時間をとれました。

2回目の失敗後に入院治療を受け、過去の入院治療と同じように、退院時には女性の顔も思い出せなくなり、治療の効果を再び感じることもできたので入院してよかったとその1で記載させていただいた条件反射制御法の治療についての自信を改めてつけられたことも、とても良かったと感じています。

現在は、維持作業を毎日実施し、安定した生活を過ごしています。定期的に外来にも通い、医師ともコミュニケーションをとっています。

制御刺激や疑似、想像、書き出しの読み返しは歯を磨いたりお風呂に入ったりするように私の日常の生活の一部となっています。

入院中に苦悩しながら書き出したつらかった出来事を読み返しても今は何も感じなくなりましたし、むしろつらかった出来事は実際大したことのない日常の出来事に感じます。

良かったことに関しても何度も読み返すことでその話の背景にも気づくことができ、周りの家族や友人に感謝の気持ちをより持つことができ、生活を充実させることができています。

このまま読み返し、さらに発見がないか楽しみにもなっています。

入院時には、落ち着いて治療に取り組むことができ、確実に良くなった状態で退院を迎えることができたとしても、社会生活での自分自身のストレスから問題行動に走らないためにもやはり退院後の維持作業については実際に私自身が2回の再入院も経験しているので、最も重要なものであると考えます。

体験を書き出したノートの読み方や想像の取り組み方については、2回の失敗があったので流れ作業にならないようにしっかりと同じ内容でも最初から最後まで読み、そこで見えたものをノートに書き出すことを毎日意識して取り組んでいます。何回も読み続けていても見え方も毎回変わるので、同じ内容でも日々違うことも実感できています。

私にとってこの治療はこれからもストーカー行為を再発させないためにも、被害者を出さないためにも、そして私自身これから良い恋愛をするために、自分自身のとても大きな御守りでもありますし、この治療法のおかげで円滑な社会生活につながられる事に心から喜びを感じています。

(2021年8月29日寄稿)

事務局からのお知らせなど

理事会の報告

2021年11月3日と12月5日に開催された理事会で検討された内容を、他の項との重複を避けて、この項に記載して報告します。

1. 役員選挙について

条件反射制御法学会の役員は2022年4月1日から新たなメンバーになります。その役員を決める選挙を年度内に行います。

状況に合わせて、また、現在の規定に不備な部分があったので、選挙規定の改正を進めてきました。2021年9月25日の総会においても、さらに検討を進めることとなり、それに基づいて理事会で次のように計画し、一部を実行しました。

- 1) ホームページで選挙規定と会則の改正案を示す。
- 2) 上記1)の現在の規定と改正案の比較表を示す。
- 3) 改正案に基づき選挙管理委員の選出に向け、候補を予定する。

上記に基づき、臨時総会を次のように開催します。

日時 2021年12月18日(土)午後1時から1時半まで

会場 Zoomによる開催

議題

- 1) 選挙規定の改正について
- 2) 会則の改正について
- 3) 選挙管理委員の選出について

上記内容は、Zoomの接続情報などを含め、会員の皆様にすでにメールでお送りした臨時総会に関するお知らせでご案内しております。

会員の皆様は是非ご参加くださるようお願いいたします。

2. 第11回条件反射制御法学会学術集会について

2022年に開催する学術集会のテーマを「薬物乱用に対応する者の役割と連携」にすることを計画しました。期日は2022年9月10日を現在のところ考えていますが、他の会議との関係で変更する可能性があります。

これまでのテーマのいくつかにより、さまざまな疾病状態と必要とされる対応を、共通する角度から検討を深めました。来年度から各逸脱行動に焦点を当てて

検討を深める計画が提案されました。来年度の学術集会は、その始めのものと位置づけています。

第12回は「性的逸脱の反復に対応する者の役割と連携」、第13回は「窃盗の反復に対応する者の役割と連携」を現在のところの計画です。

3. 研究会

反復する行動等に対して独特の活動を展開してきた方、あるいは興味深い技法に携わっている方、あるいはなかなか聞けない専門的な領域で活躍している方等による講演を聴き、意見交換をします。

第1回研究会

テーマ：刑事司法体系による治療の強制に関する実際と法

報告者：会員 尾田真言（NPO法人アパリ 事務局長）

日時：2022年2月28日（月）夕方（時刻は未定）

会場：Zoomによるライブ配信

参加費：会員 1,000円 非会員 3,000円

4. ∞連携の展開について

条件反射制御法学会の目的の一つは、反復する違法行為に対応する社会制度のあり方に関する学術研究の促進です。この部分により力を注ぐこと、並びにそのために∞連携支持施設を増やすよう努め、さまざまな検討を進めることが話し合われました。

CRCTを受けられる施設を公開しています

条件反射制御法を受けたい方に、どこにいけばこの技法が受けられるかを伝えるため、本学会のホームページ [CRCT 実施施設](#) で公開しています。現在27施設です。

ご協力いただける方は事務局のメール、crct.mugen@gmail.com 宛に下記項目をお送りください。

- ・ 貴施設名、所在地、電話番号、メールアドレス、ホームページURL
（施設写真の掲載希望がございましたら画像データを添付してください）
- ・ 申込窓口（担当部署・担当者名等）
- ・ コンタクト方法（例：電話、E-mail、HP申込フォーム）
- ・ CRCTを提供している場
（例：入院病棟、外来、カウンセリングルーム、回復支援施設等）

- ・対象にしている疾病
- ・施設の特長（フリーコメント なんでもどうぞ）

援助側と取締処分側の∞連携支持施設を紹介しています

治療を求めた患者による規制薬物使用への対応として、患者の治療意欲と社会の平安を保つ観点から効果的であり、また、司法の観点からも合法と考えられる方法を採用し、実行に移している施設を本学会のホームページ ∞連携支持施設 で公開しています。現在6施設です。

∞連携に沿う態勢で実務をされており、当会のHPに∞連携支持施設として掲載可能な場合は事務局のメール crct.mugen@gmail.com 宛にその旨をご連絡くださいますようお願いいたします。

条件反射制御法に関する研修会・実地研修等のご報告とご案内

現時点で開催を予定している研修会をご案内します。

- ・条件反射制御法オンライン研修会シリーズ2（2日間、全4回）

全4回を順番に受講していただくことをお勧めしますが、単回での受講も可能です。

日時：2022年1月22日（土） 2-1 10:00～12:00 2-2 13:00～15:00

2022年1月29日（土） 2-3 10:00～12:00 2-4 13:00～15:00

- ・条件反射制御法実地研修

主催・実施場所：下総精神医療センター、定員：2名

2022年 1月24日（月）～ 1月28日（金）満席

ご投稿について

条件反射制御法研究および∞メールへ奮ってご投稿ください。

宛先は、事務局のメール crct.mugen@gmail.com です。

●条件反射制御法研究

学会誌「条件反射制御法研究」は年に一度、発行します。その学会誌へのご投稿をお待ちしております。投稿規定は、最終号の巻末に掲載されています。

●∞メール

C R C Tや信号系学説に関係する小論、C R C Tを用いての治療体験あるいは回復した体験、実地研修の体験、他の学会で報告した感想、裁判でC R C Tの効果が認められた体験等に関して1600字程度の報告をお待ちしております。

お詫び

先月13日に会員の皆様に配信した∞メールNo.34には表題に案という文字を残しておりました。同号を、先月16日にホームページに掲載する際には、その案という文字を削除しました。

また、同号の「C R C Tを受けた方からの報告」の表題にも誤りがありました。その報告は3部に分かれた最終のものですが、そのことを伝えない記載になっておりましたので、前の2部と同様の体裁に12月2日に改訂しました。

誤りが重なり、皆様にご迷惑をおかけしたことをお詫び申し上げます。

発行

条件反射制御法学会事務局

〒162-0055 東京都新宿区余丁町14-4 NPO 法人アパリ内

<https://crct-mugen.jp> crct.mugen@gmail.com

TEL:090-3047-1573 FAX:050-3458-0214